

介護老人保健施設 『聖の郷』
TEL 042(373)2220
FAX 042(373)2219
<https://www.hijirinosato.jp/>

蓮見癌研究所
TEL 03(3338)0700
FAX 03(3339)7271

聖ヶ丘病院
TEL 042(338)8111(代表)
TEL 0120(015)811 (予約)
FAX 042(338)8118
地域連携室 042(338)8319 (直通)
<https://www.hijirigaoka.or.jp/>

医療法人社団珠光会 本部事務局
TEL 03(3556)1955
FAX 03(3556)7271
<http://shukokai.org/>



HASUMI免疫クリニック
TEL 03(3239)8101
FAX 03(6685)7749
<https://bsl-48int.com/>

診療科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療	秋 山	秋 山	西連寺		秋 山	秋 山	秋 山	秋 山	秋 山	秋 山	秋 山	秋 山
外 科	藤 井	藤 井			蓮 見							
乳腺外科	関(女医)	関(女医)										
乳腺外科	(1.3) 10:00~	(1.3)										
外 科 (泌尿器)							松 岡					
内 科	石 原		石 原		石 原				石 原			
			金 森	藤 田 (女医)	金 森	金 森			中 野			
				後 藤	大 塚	後 藤			濱 上	濱 上		
婦人科					木 村	木 村			江 (女医)		石 井	
整形外科					10:30~	14:00~			10:30~		沖 永	
											(1.3)	

内視鏡検査	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
医師	日医大		日医大	日医大			高橋	高橋	清水	清水	中沢/日医大 (交替制)	
部位	胃		胃	大腸			胃	大腸	胃	大腸	胃	

送迎バス時刻表

聖の郷 聖ヶ丘病院 発			
聖崎桜ヶ丘駅 行		永山駅 行	
7時			
8時	45		
9時	25	15	55
10時	05	45	35
11時	25	15	55
12時	05	45	35
13時	30	20	
14時	10	50	00
15時	30	20	
16時	10	50	00
17時			

聖の郷 聖ヶ丘病院 行			
聖崎桜ヶ丘駅 発		永山駅 発	
7時	50		
8時	35	15	
9時	00	40	20
10時	20	00	40
11時	00	40	20
12時	20	00	40
13時	00	45	25
14時	25	05	45
15時	05	45	25
16時	25	05	45
17時	05		

※聖ヶ丘病院正面玄関より発車

※バスターミナル 11番乗場付近

※聖崎桜ヶ丘・永山駅ともに寄留所や乗降はありません。
聖崎桜ヶ丘はクラブハウスの、永山は健康ランドの駐車場を自印記として下さい。
※車体に自印記・病院名を書いたマイクログラスが前面に貼ります。
※日曜・祝祭日・年末年始は運行しますので、お気をつけください。



聖ヶ丘通信

2023年1月発行 第76号
聖ヶ丘病院発行
発行人：広報部

新 院 長 の ご 挨拶

新年あけましておめでとうございます。

石原 扶美武



私は今年の初めから、当院の院長を任されたものですが、出身は東京慈恵会医科大学です。大学病院在職中には消化器病、とくに肝臓・胆道系疾患が専門でした。この大学は明治時代に学祖高木兼寛が開設した「成医会講習所」が始まりで、その後「東京慈恵医院医学校」と改名され、令和4年には創立130年を迎えました。

海軍軍医総監でもあった高木は当時、肺結核と並んで国民病と言われていた脚気の原因の解明をめぐって、陸軍軍医部代表で著名な小説家でもあった森林太郎(鷗外)と競っていたのです。森は原因が細菌による感染症ではないかと考え対策を行ったのですが、結果は日清・日露戦争で陸軍兵に多くの病死者を出してしまいました。一方、高木はこの病気の原因は食事による栄養の偏りに問題があるのではと考え、海軍の練習艦が長期航海に出航した際に、白米に代えて麦飯を出すなどの食事上の試みを行った結果、ほとんど脚気の原因を呈した者はおらず、この考えの正しさが証明されたのです。そして日清・日露戦争でも海軍の脚気患者はほとんど皆無であり、両戦争の海戦の勝利に大いに貢献したと言っても過言ではないでしょう。

このお話は吉村昭の小説「白い航跡」に詳しく書かれております。私の大学の建学の精神は「病気を診ずして病人を診よ」というもので、私はこれからも、高木らによって築かれたこの精神を常に頭の中に置いて診療に当たっていきたいと考えています。

我々人類はその長い歴史の中で、これまでに何度となく様々な感染症と遭遇してきました。そしてまだ細菌やウイルスなどの概念やその病態がはっきりしない時代においても、すべての生物が持っている自然免疫や脊椎動物だけが生まれつき有している適応免疫によって何とかパンデミックを収束させてきました。また近年、電子顕微鏡などの光学機器の進歩により、細菌やウイルスの病態が明らかにされた結果、多くの感染症に対してワクチンや治療薬が開発され、結核・チフス・ペストなどの細菌感染症やB型肝炎・C型肝炎・エイズ・エボラ出血熱などのウイルス感染症も、この数十年の間に治療可能になってきております。

今回の新型コロナウイルス感染症は、これまでと異なり交通手段や生活環境の変化によって世界的に流行のスピードが早く、またウイルス自体の変異の多様性などの原因によりまだ収束の気配は感じられませんが、新しいワクチンや有効な治療薬の開発も進んでおり、近い将来には必ず我々人類がこの新型コロナウイルスを制圧する可能性が高いと考えられるので、大いに期待しましょう。